自立活動目標設定シート

学年・学級		氏　名	
障害の種類・程度や状態			

実態把握

障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習などのついての情報収集					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
○基本的生活習慣は整っており、体調は良好である。 △偏食があり、牛乳やひき肉、油揚げなどが苦手である。少量であればロに含むことができる。 ○尿意や便意を感じて、自分からトイレに向かうことができる。 △体調不良を自分で伝えることが難しい △気温に合わせて服装の調節を行うことが難しい	○朝の準備や帰りの支度など見通しがもてる活動は、一人でも落ち着いて最後まで取り組むことができる。 ○静かに落ち着いて過ごせる空間が好きである。 △周りの音や声が大きいと耳を塞いでしまう。 ○急な予定変更があっても、概ね対応することができる。 △初めての場所や知らない相手に対して不安を感じることがある △自分の納得のいかないことがあるとその場にとどまることがある	○毎日の繰り返しで「おはよ」や呼名の際の返事などは言葉で対応することができるようになった。 △自分から他者と関わりをもつことは苦手である。 ○友達と手をつないで移動することができる。 ○褒められたことを次も繰り返しやろうとすることができる。 △友達が不意に体に触れたり、ぶつかったりすると、相手の腕を強く握ることがある。	○絵本や映像が好きで、注視し続けることができる。 ○学級の友達の様子を見て、移動教室について行ったり、授業準備を始めたりすることができる。 ○手本を模倣することが得意である。 △大きな音が苦手である ○場所カードや絵カードを見て物事を理解することが得意である	○運動神経が良く、サーキット運動ではやり方や順序が分かれば、一人で取り組むことができる。 △他者に身体を触られていると緊張が強くなり、脱力が難しくなる。 ○座位の姿勢が長い時間続いても、崩すことなく、正しい姿勢で座り続けることができる。 ○簡単なダンスは模倣して取り組める。 △難易度の高いダンスだと踊れる部分があっても、踊らずに固まってしまう。 ○はさみを使ったり、シールを貼ったりする指先を使う動作ができる	○言語理解が高く、口頭指示を理解して行動に移すことができる。 ○動作サインを使って、トイレと「ください」を自分から伝えることができる。 △嫌なことがあると、耳を塞いで固まる。 ○母音の音声模倣が得意であり、口や舌の体操では、口形を大きく動かして取り組むことができる。 ○名前を呼ばれると「はあい。」と大きな声で返事をすることができる。 △舌を使った子音の発声が不明瞭である。 △自信のない言葉は、声が小さい。

文頭に良いところは○を
課題点には△を記入。

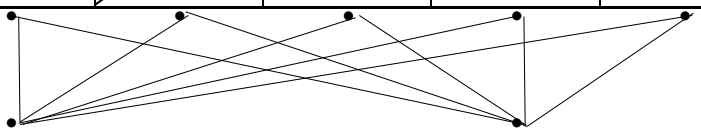
※幾つかの指導目標の中で優先する目標として

長期指導目標	発声できる単語を増やしたり、 絵カードに描かれているものを言葉で答えられる物を増やしたりすることができる。

※指導目標を達成するために必要な項目の選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
□生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。	☑情緒の安定に関すること。	☑他者とのかかわりの基礎に関すること。	☑保有する感覚の活用に関すること。	☑姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。	☑コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
□病気の状態の理解と生活管理に関すること。	□状況の理解と変化への対応に関すること。	☑他者の意図や感情の理解に関すること。	□感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。	□姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。	☑言語の受容と表出に関すること。
□身体各部の状態の理解と養護に関すること。	□障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	□自己の理解と行動の調整に関すること。	□感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。	□日常生活に必要な基本動作に関すること。	☑言語の形成と活用に関すること。
□障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。		☑集団への参加の基礎に関すること。	□感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動に関すること。	□身体の移動能力に関すること。	☑コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
□健康状態の維持・改善に関すること。			□認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。	□作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	□状況に応じたコミュニケーションに関すること。

**※選定された項目を関連付け
具体的な指導内容を設定**



具体的な指導内容	舌の体操→「むすんでひらいて」の曲にわせ、映像を見ながら舌を動かす活動に取り組む。 あいうべ体操→あいうべ体操を絵カードを見ながら、大きくロを開けて発声する活動に取り組む。	動物の鳴き声や動作を音で表したペープサートを用意し、児童へ順番にペープサートを手に取るように促し、選んだ音声と動きを模倣するように促す。その際、自分の発した声が聞こえやすいようにマイクを使用する。
具体的な指導場面 ○誰が ○いつ ○どこで	○グループ全体で行い、慣れてきたら一人で発表する場面をつくる。 ○自立活動の授業や休み時間に ○教室で	○グループ全体で行い、慣れてきたら一人で発表する場面をつくる。 ○自立活動の授業や休み時間に ○教室で
短期指導目標	・舌や顔の筋肉を使ったロの動きができるようになる。 ・発声できる音を増やす。	・自信をもって大きな声で発声できるようになる。 ・絵カードに描かれたものを言葉で答えられるようになる。